研究発表主旨

2025年2月24日「推しのプレゼン」大会

大和路の芭蕉句碑を巡る

磯村洋一

はじめに

松尾芭蕉は生涯の後半の 10 年は江戸を離れ旅に出、6回ほど「大和行脚」を行いました。 『野ざらし紀行』や『笈の小文(おいのこぶみ)』の紀行文の中で大和を詠んだ 35 の句碑を 紹介しながら、句に込められた芭蕉の思いに触れていきます。

## 1.大和に建てられている芭蕉の句碑の紹介

まず、大和に建てられている芭蕉の句碑を紹介します。参考文献やネットなどで調べた ところ35の碑があります。もしこの資料にない碑がありましたら後で教えてください。 このリストは碑が建てられた順に並べています。

碑に刻まれた句の数について、

6番と29番,10番と35番は1つの句が2箇所に建てられています。逆に22番と32番は2つの句が1つの碑に刻まれています。従って、碑の数も句の数も35となります。ただ、すべてが奈良で詠まれた句というわけではなく、5番.8番.14番と.32番~34番は江戸その他で詠まれたもの、さらに20番はそもそも芭蕉の句ではないとの記載もあります。

松尾芭蕉の生涯について説明した後、この句碑に刻まれた句の中から特に皆様に紹介したい句を「推しの9句」としてプレゼンさせていただきます。

# 大和に建てられている芭蕉の35碑 建碑順 「芭蕉大和路 大安隆」等参照

2 覧成5年 (1793)	
4 文化6年(1809) 綿弓や琵琶に慰む竹の奥 当麻・竹内・綿弓塚 1684 野ざらし紀行 けふばかり入も年よれ初時雨 郡山・良幻寺境内 1692 趙裔 △ △ 編編所:江	1
5 文化7年 (1810)         けふばかり人も年よれ初時雨         郡山・良幻寺境内         1692         韻響	1
大正2年(1913)	1
7 文化11年 (1814) 花ざかり山は日比の朝ぼらけ 吉野山・下千本 1688 芭蕉庵小文庫 1694 次に13年 (1816) 梅が香にのっと日の出る山路かな 榛原・宗祐寺境内 1694 次日記 △詠場所:江 2 京政4年 (1821) 若葉して御目の雫拭はばや 奈良・唐招提寺境内 1688 次の小文 10 文政年間 (1818→30?) 奈良七重七堂伽藍八重ざくら 奈良・若草山蔵 年次不明 泊般集 11 弘化3年 (1846) 露とくとく試に浮世すすがばや 吉野山・下千本 1688 次の小文 12 江戸末期? 芳野にてさくら見せうぞ檜木笠 吉野山・下千本 1688 次の小文 11 明治初年? 春もややけしきととのふ月と梅 月ヶ瀬・一目万本台 1693 鷹獅子集 △詠場所:江 15 明治25年 (1889) 春の夜はさくらに明てし舞けり 桜井・来迎寺境内 年次不明 翁草 168 駅からしたに明行神の顔 柳所・一言主神社境内 1688 家の小文 17 大正2年 (1913) 水取や籠りの僧の沓の音 奈良・東大寺二月堂下 1685 野ざらし紀行 18 昭和9年 (1934) 僧朝顔幾死にかへる法の松 当麻・当麻寺中之坊前庭 1684 野ざらし紀行 19 昭和12年 (1937) うぐいすを魂に眠るか嬌柳 天理・在原神社境内 ~1683 みなしぐり 昭和12年 (1957) 雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・鯨貝・本善寺境内 ? ? 作:×芭蕉 18 昭和42年 (1967) 雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・鰤貝・ 1688 第の小文 1つの碑に2 昭和45年 (1970) 福門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 第の小文 1つの碑に2 昭和45年 (1970) 福門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 第の小文 1つの碑に2 昭和45年 (1970) 福子の大院 15のよに語らんかかる瀧の花 吉野・竜門滝前 1688 第の小文 1つの碑に2 昭和45年 (1970) 福子の大院 15のは 1684 野ざらし紀行 1584 昭和45年 (1970) 福子の大院 1584 日 1684 野ざらし紀行 1584 日 1685 日 1684 日 1688 日 1684 日 1688 日 1684 日 1688 日 1684 日 1688 日 1688 日 1684 日 1688 日 1684 日 1688 日	1
8 文化13年 (1816)         梅が香にのっと日の出る山路かな 線原・崇祐寺境内         1694 繁日記 △詠場所:江           9 文改4年 (1821)         若葉して御目の雫拭はばや 奈良・唐招援寺境内         1688 繁の小文           10 文改年間 (1818~30?)         奈良七重七堂伽藍八重ざくら 奈良・若草山離 年次不明 泊穀集         1684 野ざらし紀行           11 弘化3年 (1846)         露とくとく試に浮世すすがばや 吉野山・下千本 1688 紫の小文         1684 野ざらし紀行           12 江戸末期?         芳野にてさくら見せうぞ檜木笠 吉野山・下千本 1688 紫の小文         1683 鷹新子集 △詠場所:江           14 明治初年?         春もややけしきととのふ月と梅 月ヶ瀬・一日万本台 1693 鷹新子集 △詠場所:江         15 明治25年 (1889)         春の夜はさくらに明てし舞けり 桜井・来迎寺境内 年次不明 3章         1688 紫の小文           16 明治25年 (1892)         猶見たし花に明行神の顔 9番の音 奈良・東大寺二月堂下 1685 野ざらし紀行 1889年 (1934)         僧朝顔幾死にかへる法の松 当麻・当麻寺中之坊前庭 1684 野ざらし紀行 1984年 (1937)         今くいすを魂に眠るか矯柳 天理・在原神社境内 ~1683 みなしくり 20 昭和12年 (1937)         うくいすを魂に眠るか矯柳 天理・在原神社境内 ~1683 次の小文 1つの碑に近 昭和42年 (1967)         雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・飯貝・本善寺境内 ? ? 作:※芭蕉 22 昭和45年 (1970)         渡のみに語らんかかる瀧の花 吉野・龍崎頂上 1688 紫の小文 1つの碑に近 22 昭和45年 (1970)         浦のみに語らんかかる瀧の花 吉野・龍門瀬前 1688 紫の小文 1つの碑に近 22 昭和45年 (1970)         遠のみに語らんかかる瀧の花 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 10 日報 野ざらし紀行 11 日報 11	
9 文政4年 (1821) 若葉して御目の雫拭はばや 奈良・唐招振寺境内 1688 笈の小文 10 文政年間 (1818~30?) 奈良七重七堂伽藍八重ざくら 奈良・若華山窟 年次不明 泊酸集 11 弘化3年 (1846) 露とくとく試に浮世すすがばや 吉野山・舌清水 1684 野ざらし紀行 12 江戸末期? 芳野にてさくら見せうぞ檜木笠 吉野山・下千本 1688 笈の小文 13 不詳 世にさかる花にも念仏まうしけり 大淀・比磨・世尊寺境内 貞率年間 芭蕉句集 14 明治初年? 春もややけしきととのふ月と梅 月ヶ瀬・一日万本台 1693 蕭獅子集 △詠場所:江 15 明治22年 (1889) 春の夜はさくらに明てし舞けり 桜井・来迎寺境内 年次不明 翁草 16 明治25年 (1892) 猶見たし花に明行神の顔 御所・一言主神社境内 1688 笈の小文 17 大正2年 (1913) 水取や籠りの僧の沓の音 奈良・東大寺二月堂下 1685 野ざらし紀行 18 昭和9年 (1934) 僧朝顔幾死にかへる法の松 当麻・当麻寺中之坊前庭 1684 野ざらし紀行 19 昭和12年 (1937) うぐいすを魂に眠るか矯柳 天理・在原神社境内 ~1683 みなしぐり 昭和30年 (1955) 飯貝や雨に泊りて田螺きく 吉野・飯貝・本善寺境内 ? ? 作:×芭蕉 18和42年 (1970) 霊でより空にやすらふ峠かな 吉野・細崎頂上 1688 笈の小文 1つの碑に近 昭和45年 (1970) 瀧門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に近 18和45年 (1970) 福力のみに語らんかかる瀧の花 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に近 18和45年 (1970) 福力のみに語らんかかる瀧の花 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に近 18和45年 (1970) 福力の子に記らんかかる龍の花 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に近 18和45年 (1970) 福力で我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 18和45年 (1970) 福打ちて我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 18和45年 (1970) 福打ちて我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 18和46年 (1971) 木の葉散桜は軽し檜木笠 吉野山・魚崎神社境内 1684 野ざらし紀行 18和46年 (1971) 木の葉散桜は軽し檜木笠 吉野山・魚崎神社境内 1684 真真短冊	1
10   文政年間 (1818~30?)   奈良七重七堂伽藍八重ざくら   奈良・若草山麓   年次不明   泊般集   11   弘化3年 (1846)   露とくとく試に浮世すすがばや   吉野山・苦清水   1684   野ざらし紀行   江戸末期?   芳野にてさくら見せうぞ檜木笠   吉野山・下千本   1688   笈の小文   13   不詳   世にさかる花にも念仏まうしけり   大淀・比曽・世尊寺境内   真草桐   芭蕉句集   一	1
11 弘化3年 (1846)   露とくとく試に浮世すすがばや   吉野山・苔清水   1684   野ざらし紀行   江戸末期?   芳野にてさくら見せうぞ檜木笠   吉野山・下千本   1688   滚の小文   13 不詳   世にさかる花にも念仏まうしけり   大淀・比曽・世尊寺境内   貞享年間   芭蕉句集   14 明治初年?   春もややけしきととのふ月と梅   月ヶ瀬・一目万本台   1693   薦獅子集   △詠場所:江   15 明治22年 (1889)   春の夜はさくらに明てし舞けり   桜井・来迎寺境内   年次不明   翁草   1688   図の小文   17 大正2年 (1892)   猶見たし花に明行神の顔   御所・一言主神牡境内   1688   図の小文   17 大正2年 (1913)   水取や籠りの僧の沓の音   奈良・東大寺二月堂下   1685   野ざらし紀行   1888   昭和9年 (1934)   僧朝顔幾死にかへる法の松   当麻・当麻寺中之坊前庭   1684   野ざらし紀行   18 昭和12年 (1937)   うぐいすを魂に眠るか矯柳   天理・在原神社境内   ~1683   みなしぐり   20 昭和30年 (1955)   飯貝や雨に泊りて田螺きく   吉野・飯貝・本善寺境内   ? ? 作:×芭蕉   昭和42年 (1967)   雲雀より空にやすらふ峠かな   吉野・蘇門滝前   1688   窓の小文   1つの碑に近   昭和45年 (1970)   福門の花や上戸の土産にせん   吉野・竜門滝前   1688   窓の小文   1つの碑に近   昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1688   窓の小文   24 昭和45年 (1970)   福打ちて我にきかせよや坊が妻   吉野山・東南院前庭   1684   野ざらし紀行   25 昭和45年 (1970)   御廟年経て忍は何をしのぶ草   古野山・東南院前庭   1684   野ざらし紀行   26 昭和45年 (1970)   御廟年経て忍は何をしのぶ草   古野山・東南院前庭   1684   野ざらし紀行   26 昭和46年 (1971)   木の葉散桜は軽し檜木笠   吉野山・血倉輪寺境内   1684   真満短冊   1684   真満年   1685   1884   1	1
12   江戸末期?   芳野にてさくら見せうぞ檜木笠   吉野山・下千本   1688   窓の小文   13   不詳   世にさかる花にも念仏まうしけり   大淀・比曽・世尊寺境内   貞享年間   芭蕉句集   14   明治初年?   春もややけしきととのふ月と梅   月ヶ瀬・一日万本台   1693   鷹獅子集   △詠場所:江   15   明治25年 (1889)   春の夜はさくらに明てし舞けり   桜井・来迎寺境内   年次不明   翁草   1688   窓の小文   1688   窓の小文   17   大正2年 (1913)   水取や籠りの僧の沓の音   奈良・東大寺二月堂下   1685   野ざらし紀行   18   昭和9年 (1934)   僧朝顔幾死にかへる法の松   当廃・当廃寺中之坊前庭   1684   野ざらし紀行   19   昭和12年 (1937)   うぐいすを魂に眠るか嬬柳   天理・在原神社境内   ~1683   みなしぐり   1684   野ざらし紀行   18   昭和42年 (1967)   雲雀より空にやすらふ峠かな   吉野・飯貝・本善寺境内   ? 作・×芭蕉   1688   窓の小文   1つの碑に2   1688   窓の小文   1つの碑に2   1688   窓の小文   1つの碑に2   1688   宮の小文   10の碑に2   1688   1688   1688   1688   1688   1689	
世にさかる花にも念仏まうしけり   大淀・比曾・世尊寺境内   貞享年間   芭蕉句集   日   日   日   日   日   日   日   日   日	1
14 明治初年? 春もややけしきととのふ月と梅 月ヶ瀬・一日万本台 1693 薦獅子集 △詠場所:江15 明治22年(1889) 春の夜はさくらに明てし舞けり 桜井・来迎寺境内 年次不明 翁草 16 明治25年(1892) 猶見たし花に明行神の顔 御所・一言主神社境内 1688 笈の小文 17 大正2年(1913) 水取や籠りの僧の沓の音 奈良・東大寺二月堂下 1685 野ざらし紀行 18 昭和9年(1934) 僧朝顔幾死にかへる法の松 当麻・当麻寺中之坊前庭 1684 野ざらし紀行 19 昭和12年(1937) うぐいすを魂に眠るか嬌柳 天理・在原神社境内 ~1683 みなしぐり 18和30年(1955) 飯貝や雨に泊りて田螺きく 吉野・飯貝・本善寺境内 ? ? 作:×芭蕉 18和42年(1967) 雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・細峠頂上 1688 笈の小文 1つの碑に22 昭和45年(1970) 瀧門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に22 昭和45年(1970) ほろほろと山吹くちるかたきの音 川上・大滝茶屋横 1688 笈の小文 1つの碑に24 昭和45年(1970) 碪打ちて我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 18和45年(1970) 御廟年経て忍は何をしのぶ草 吉野山・如意輪寺境内 1684 野ざらし紀行 1684 東護短冊 1684 東藤寺境内 1684 東護短冊 1684 東護短冊 1684 東護短冊 1684 東藤寺境内 1684 東護短冊 1684 東藤寺境内 1684 東護短冊 1684 東藤寺境内 1684 東護短冊 1684 東護短冊 1684 東護短冊 1684 東藤寺境内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺内 1684 東藤寺寺 1884 東藤寺寺 1884 東藤寺寺 1884 東藤寺寺 1884 東藤寺寺 1884 東藤寺寺寺 1884 東藤寺寺寺 1884 東藤寺寺寺 1884 東藤寺寺寺 1884 東藤寺寺寺寺 1884 東藤寺寺寺寺 1884 東藤寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺	1
15 明治22年 (1889)   春の夜はさくらに明てし舞けり   桜井・来迎寺境内   年次不明   翁草   16 明治25年 (1892)   猶見たし花に明行神の顔   御所・一言主神社境内   1688   笈の小文   17 大正2年 (1913)   水取や籠りの僧の沓の音   奈良・東大寺二月堂下   1685   野ざらし紀行   18 昭和9年 (1934)   僧朝顔幾死にかへる法の松   当麻・当麻寺中之坊前庭   1684   野ざらし紀行   19 昭和12年 (1937)   うぐいすを魂に眠るか嬌柳   天理・在原神社境内   ~1683   みなしぐり   20 昭和30年 (1955)   飯貝や雨に泊りて田螺きく   吉野・飯貝・本善寺境内   ? ? 作:×芭蕉   21 昭和42年 (1967)   雲雀より空にやすらふ峠かな   吉野・龜門頂上   1688   笈の小文   1つの碑に2 昭和45年 (1970)   酒のみに語らんかかる瀧の花   吉野・竜門滝前   1688   笈の小文   1つの碑に2 昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1688   笈の小文   23 昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1684   野ざらし紀行   25 昭和45年 (1970)   福打ちて我にきかせよや坊が妻   吉野山・東南院前庭   1684   野ざらし紀行   26 昭和45年 (1970)   御廟年経て忍は何をしのぶ草   吉野山・如意輪寺境内   1684   野ざらし紀行   1684   野ざらし紀行   1684   日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日	1
16 明治25年 (1892)	1
大正2年 (1913)   水取や籠りの僧の沓の音   奈良・東大寺二月堂下   1685   野ざらし紀行   188   昭和9年 (1934)   僧朝顔幾死にかへる法の松   当麻・当麻寺中之坊前庭   1684   野ざらし紀行   199   昭和12年 (1937)   うぐいすを魂に眠るか嬌柳   天理・在原神社境内   ~1683   みなしぐり   200   昭和30年 (1955)   飯貝や雨に泊りて田螺きく   吉野・飯貝・本善寺境内   ? ? 作:×芭蕉   昭和42年 (1967)   雲雀より空にやすらふ峠かな   吉野・龜峠頂上   1688   笈の小文   220   昭和45年 (1970)   酒のみに語らんかかる瀧の花   吉野・竜門滝前   1688   笈の小文   1つの碑に記   230   昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1688   笈の小文   1つの碑に記   240   昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1684   寮ざらし紀行   250   昭和45年 (1970)   御廟年経て忍は何をしのぶ草   吉野山・如意輪寺境内   1684   野ざらし紀行   1684   野ざらし紀行   1684   日本4   真蹟短冊   1684   日本4   日本4   1684   日本4	
18 昭和9年 (1934) 僧朝顔幾死にかへる法の松   当麻・当麻寺中之坊前庭   1684 野ざらし紀行   19 昭和12年 (1937)   うぐいすを魂に眠るか嬌柳   天理・在原神社境内   ~1683 みなしぐり   20 昭和30年 (1955)   飯貝や雨に泊りて田螺きく   吉野・飯貝・本善寺境内   ?   作:×芭蕉   21 昭和42年 (1967)   雲雀より空にやすらふ峠かな   吉野・細峠頂上   1688   笈の小文   22 昭和45年 (1970)   瀬門の花や上戸の土産にせん   吉野・竜門滝前   1688   笈の小文   1つの碑に2   22 昭和45年 (1970)   酒のみに語らんかかる瀧の花   吉野・竜門滝前   1688   笈の小文   1つの碑に2   23 昭和45年 (1970)   ほろほろと山吹くちるかたきの音   川上・大滝茶屋横   1688   笈の小文   24 昭和45年 (1970)   碪打ちて我にきかせよや坊が妻   吉野山・東南院前庭   1684   野ざらし紀行   25 昭和45年 (1970)   御廟年経て忍は何をしのぶ草   吉野山・如意輪寺境内   1684   野ざらし紀行   26 昭和46年 (1971)   木の葉散桜は軽し檜木笠   吉野山・金峰神社境内   1684   真蹟短冊	
19 昭和12年 (1937) うぐいすを魂に眠るか嬌柳 天理・在原神社境内 ~1683 みなしぐり 20 昭和30年 (1955) 飯貝や雨に泊りて田螺きく 吉野・飯貝・本善寺境内 ? 作:×芭蕉 21 昭和42年 (1967) 雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・細峠頂上 1688 笈の小文 22 昭和45年 (1970) 瀬門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に22 昭和45年 (1970) 酒のみに語らんかかる瀧の花 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に23 昭和45年 (1970) ほろほろと山吹くちるかたきの音 川上・大滝禾屋横 1688 笈の小文 24 昭和45年 (1970) 碪打ちて我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 25 昭和45年 (1970) 御廟年経て忍は何をしのぶ草 吉野山・如意輪寺境内 1684 野ざらし紀行 1684 野ざらし紀行 1684 昭和46年 (1971) 木の葉散桜は軽し檜木笠 吉野山・金峰神社境内 1684 真蹟短冊	1
20 昭和30年 (1955) 飯貝や雨に泊りて田螺きく 吉野・飯貝・本善寺境内 ? 作:×芭蕉 21 昭和42年 (1967) 雲雀より空にやすらふ峠かな 吉野・細峠頂上 1688 笈の小文 22 昭和45年 (1970) 瀬門の花や上戸の土産にせん 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に2 23 昭和45年 (1970) 酒のみに語らんかかる瀧の花 吉野・竜門滝前 1688 笈の小文 1つの碑に2 24 昭和45年 (1970) ほろほろと山吹くちるかたきの音 川上・大滝茶屋横 1688 笈の小文 25 昭和45年 (1970) はろほろと山吹くちるかたきの音 川上・大滝茶屋横 1688 笈の小文 26 昭和45年 (1970) 雄打ちて我にきかせよや坊が妻 吉野山・東南院前庭 1684 野ざらし紀行 27 昭和45年 (1970) 御廟年経て忍は何をしのぶ草 吉野山・如意輪寺境内 1684 野ざらし紀行 28 昭和46年 (1971) 木の葉散桜は軽し檜木笠 吉野山・金峰神社境内 1684 真蹟短冊	1
21 昭和42年 (1967)     雲雀より空にやすらふ峠かな     吉野・細峠頂上     1688 笈の小文       22 昭和45年 (1970)     瀧門の花や上戸の土産にせん     吉野・竜門滝前     1688 笈の小文     1つの碑に名       22 昭和45年 (1970)     酒のみに語らんかかる瀧の花     吉野・竜門滝前     1688 笈の小文     1つの碑に名       23 昭和45年 (1970)     ほろほろと山吹くちるかたきの音     川上・大滝茶屋横     1688 笈の小文       24 昭和45年 (1970)     碪打ちて我にきかせよや坊が妻     吉野山・東南院前庭     1684 野ざらし紀行       25 昭和45年 (1970)     御廟年経て忍は何をしのぶ草     吉野山・如意輪寺境内     1684 野ざらし紀行       26 昭和46年 (1971)     木の葉散桜は軽し檜木笠     吉野山・金峰神社境内     1684 真蹟短冊	1
22 昭和45年 (1970)       瀧門の花や上戸の土産にせん       吉野・竜門滝前       1688 笈の小文       1つの碑に2         22 昭和45年 (1970)       酒のみに語らんかかる瀧の花       吉野・竜門滝前       1688 笈の小文       1つの碑に2         23 昭和45年 (1970)       ほろほろと山吹くちるかたきの音       川上・大滝茶屋横       1688 笈の小文         24 昭和45年 (1970)       碪打ちて我にきかせよや坊が妻       吉野山・東南院前庭       1684 野ざらし紀行         25 昭和45年 (1970)       御廟年経て忍は何をしのぶ草       吉野山・如意輪寺境内       1684 野ざらし紀行         26 昭和46年 (1971)       木の葉散桜は軽し檜木笠       吉野山・金峰神社境内       1684 真蹟短冊	1
22昭和45年 (1970)酒のみに語らんかかる瀧の花吉野・竜門滝前1688笈の小文1つの碑に名23昭和45年 (1970)ほろほろと山吹くちるかたきの音川上・大滝茶屋横1688笈の小文24昭和45年 (1970)碪打ちて我にきかせよや坊が妻吉野山・東南院前庭1684野ざらし紀行25昭和45年 (1970)御廟年経て忍は何をしのぶ草吉野山・如意輪寺境内1684野ざらし紀行26昭和46年 (1971)木の葉散桜は軽し檜木笠吉野山・金峰神社境内1684真蹟短冊	
23 昭和45年 (1970)     ほろほろと山吹くちるかたきの音     川上・大滝茶屋横     1688 笈の小文       24 昭和45年 (1970)     碪打ちて我にきかせよや坊が妻     吉野山・東南院前庭     1684 野ざらし紀行       25 昭和45年 (1970)     御廟年経て忍は何をしのぶ草     吉野山・如意輪寺境内     1684 野ざらし紀行       26 昭和46年 (1971)     木の葉散桜は軽し檜木笠     吉野山・金峰神社境内     1684 真蹟短冊	<b>9</b>
24昭和45年 (1970)碪打ちて我にきかせよや坊が妻吉野山・東南院前庭1684野ざらし紀行25昭和45年 (1970)御廟年経て忍は何をしのぶ草吉野山・如意輪寺境内1684野ざらし紀行26昭和46年 (1971)木の葉散桜は軽し檜木笠吉野山・金峰神社境内1684真蹟短冊	<del>0</del>
25 昭和45年 (1970)     御廟年経て忍は何をしのぶ草     吉野山・如意綸寺境内     1684     野ざらし紀行       26 昭和46年 (1971)     木の葉散桜は軽し檜木笠     吉野山・金峰神社境内     1684     真蹟短冊	
26       昭和46年 (1971)       木の葉散桜は軽し檜木笠       吉野山・金峰神社境内       1684       真蹟短冊	
27 昭和46年 (1971) 春雨のこしたにつたふ清水哉 吉野山・苔清水 1688 笈の小文	
28 昭和47年 (1972)     はなのかげうたひに似たるたび寝哉     吉野・平尾バス停前     1688 笈の小文	
29 昭和54年 (1979) 草臥て宿かる比や藤の花 橿原・八木公民館前 1688 笈の小文	
30 平成2年 (1990) うち山やとさましらずの花ざかり 天理・永久寺跡・本堂池畔 1673 大和巡礼	
31 平成5年 (1993) <b>ぴいと啼く尻声悲し夜の鹿</b> 奈良・春日大社境内 1694 笈日記	
32 平成5年 (1993) <b>蛤のふたみに別行秋ぞ</b> 下市・中央公園 1689 奥の細道 △1つの碑は	<mark>2</mark> 句
32 平成5年 (1993) <b>みのむしのねを聞にこよ草の庵</b> 下市・中央公園 1687 深川芭蕉庵 △1つの碑(	<mark>2</mark> 旬
33 平成7年 (1995) 夏草や兵共が夢の跡 下市・中央公園 1689 奥の細道 △	
34 平成7年 (1995) 馬ぼくぼく我を絵に見舞夏野かな 下市·中央公園 1683 三冊子 △	
35 平成11年 (1999) 奈良七重七堂伽藍八重ざくら 奈良・なら100年会館 年次不明 泊般集	

## 2.松尾芭蕉の生涯

## 松尾芭蕉 略年表

江戸時代前期の俳人 1644-1694 伊賀上野出身

983 句の作品

武家奉公をしつつ俳諧になじむ。江戸で宗匠(俳諧の師匠)となり、晩年の 10 年間 (1684~1694) は旅と庵住を繰り返しつつ、俳諧の革新を成し遂げる。

<略年譜(抜粋)>

1684 (貞享元) 8月①「野ざらし紀行」 竹ノ内村・吉野他 伊賀上野で年越

1685 (貞享2) 2月② 東大寺二月堂お水取り参堂・興福寺薪能見学

1687 (貞享4) 8月「鹿島紀行」 10月「笈の小文」

1688(貞享5)3月3三輪・八木・吉野・当麻・葛城・奈良 8月「更科紀行」

1689(元禄 2) 3 月「おくの細道」

11月4奈良 春日若宮御祭見学

1691 (元禄4) 2月5興福寺薪能見学

1694 (元禄7) 9月69/8~9/9 奈良市内

10月 10/12 大坂で病没

青字はいわゆる「芭蕉の5大紀行」で、「野ざらし紀行」と「笈の小文」の旅で奈良に 多くの句を残しています。赤丸は奈良を訪れた年に番号を付けています。計6回訪れて います。詳細は、このあと推しの句のお話の中で説明します。

#### 3.推しの9句

9句にはそれぞれタイトルをつけて説明します。句の頭の番号は句碑リストの番号です

- 1) 芭蕉 こころのふるさと 竹ノ内村
  - (4)綿弓や琵琶に慰む竹のおく

句碑の場所:竹ノ内・綿弓塚

年次:1684(貞享元)年9月

底本:野ざらし紀行

意訳:ひっそりとした竹林の奥、綿弓の音が琵琶のように響いて私の心

を慰めてくれる

綿弓広場 庭の全景



野ざらし紀行の旅は、「野垂れ死んで白骨になることも覚悟し大きな不安を抱えた厳しい修行の旅」でしたが、竹ノ内村で出会った人々と心が通じ合い、心の安らぎを得たのです。年表のとおり、竹ノ内村には4回訪問しています。これは大和の訪問先で一番多いと言われています。これを見ても、竹ノ内村は芭蕉の「心のふるさとだった」といえると思います。

# 松尾芭蕉 略年表 竹ノ内村 4回訪問

<略年譜(抜粋)>

- 1684 (貞享元) 8月①「野ざらし紀行」
  - 9月 (1)竹ノ内村→吉野→(2)竹ノ内村 伊賀上野で年越
- 1685(貞享2)2月②(3)竹ノ内村→東大寺2月堂お水取り参堂→ 興福寺薪能見学
- •1688 (貞享5) 3月3 「笈の小文」
  - 三輪・八木・吉野 当麻・葛城・(4)竹ノ内村
- 1689 (元禄 2)11月4 奈良 春日若宮御祭見学
- 1691 (元禄 4) 2月 5 興福寺薪能見学
- 1694(元禄7) 9月⑥9/8~9/9 重陽の節句を奈良で 10月 10/12大坂で病没

## 2) 芭蕉の憧憬(あこがれ) 西行

(11) 露とくとく試に浮世すすがばや

句碑の場所:吉野山・苔清水

年次: 1684(貞享元)年 底本:野ざらし紀行

芭蕉の句は、「とくとくと落つる岩間の苔清水 くみほすほどもなき住居哉」という、西 行の句を受けて作ったものです。芭蕉はこんな句も作っています。日頃から、いかに西行 を意識しているかがわかると思います。西行は、芭蕉の「憧れの人だった」ことがわかる と思います。

- ・西行の 草鞋(わらじ)もかかれ 松の露(松の絵を見て)
- ・芋洗ふ女 西行ならば歌よまむ



- 3) 芭蕉の哀傷(あいしょう 悲しく心を痛める) 南朝回帰 後醍醐天皇
  - (25) 御廟年経て忍は何をしのぶ草

句碑の場所:吉野山・如意輪寺境内

年次: 1684(貞享元)年 底本:野ざらし紀行

意訳:歳月を経た後醍醐帝の御廟(お墓) にはびこるしのぶ草は、何を偲んで い

るのだろうか





## 4) 芭蕉のやさしさ 鑑真

(9) 若葉して御目の雫拭はばや

句碑の場所:奈良・唐招提寺境内

年次: 1688(貞享5)年 初夏

底本:笈の小文

(笈とは、書籍などを背負って歩く道具 竹で編んだ箱)

意訳: 若葉によって目もとの雫をぬぐって差し上げたい

## 5) 芭蕉も奈良派

# 芭蕉も奈良派

<略年譜(抜粋)>

•1684(貞享元)8月1 「野ざらし紀行」

竹ノ内村・吉野他 伊賀上野で年越

•1685(貞享2)2月2 「野ざらし紀行」

東大寺二月堂お水取り参堂・興福寺薪能見学

- ・1687(貞享4)8月「鹿島紀行」 10月~「笈の小文」
- •1688(貞享5)3月③「笈の小文」

三輪・八木・吉野・当麻・葛城・大仏殿再建起工式

•1689(元禄2)3月「おくの細道|

11月4条良 春日若宮御祭見学

- •1691 (元禄 4) 2月5興福寺薪能見学
- ・1694(元禄7)9月⑥9/8~9/9 重陽の節句を奈良で 10月 10/12大坂で病没

ご覧のように、東大寺のお水取り、興福寺の薪能の見学、東大寺大仏殿の再建起工式、春日若宮のおん祭、2度目の興福寺の薪能見学。と、いにしえの行事に憧れがあったことに間違いはありません。正真正銘、芭蕉は奈良派です。

## (17) 水取や籠りの僧の沓の音

句碑の場所:奈良・東大寺二月堂下

年次:1685(貞享5)年 2月

底本:野ざらし紀行

意訳:お水取りの凍りつくような気配の中、僧達の沓の音が響きわたる

## 句碑



### ◆芭蕉の原作: 水取や氷の僧の沓の音

面白いのは、肝心の所が原作と変わっていることです。原作は、「氷」、 お水取りを生で見ているときの寒さ冷たさがリアルに伝わってきますが、その後弟子が籠もりの方が合うと思ったのか書き直し、句碑にもこちらの「籠もり」が刻まれました。芭蕉の研究者も判断は二分しています。皆さんはどちらがお好みですか?

6) 2箇所に碑がある人気の句 part1 まるで奈良のキャッチコピー

#### (10)(35)奈良七重七堂伽藍八重ざくら

句碑の場所: ①奈良・若草山麓 ②なら百年会館

年次: 不明 底本:泊般集

## ①奈良・若草山麓の句碑



## ②なら百年会館の句碑



意訳: 奈良には七代の皇都であり、七堂伽藍を備えた 大寺院が多く、古歌に名高い八重桜もある

この句は名詞を並べただけなのですが、数字をうまく組み入れて絶妙なリズムになってい ます。

# 7) 2 箇所に碑がある人気の句 part2 推敲の妙!

(6)(29)草臥て宿かる比や藤の花

句碑の場所: ①天理・三昧田・権現辻

②橿原・八木公民館前

年次: 1688(貞享5)年

底本: 笈の小文

なぜ2箇所に句碑があるかというと、それぞれ、「芭蕉が当地に宿泊した」と言いたいの ですが、それを裏付ける決め手がなく、研究者の意見も二分しており、現在に至っていま す。

天理







# 八木





意訳:歩き疲れて宿屋を求める夕暮れのころ、 藤の花が私をとらえる

推敲の妙!初案:ほととぎす宿かる比の藤の花

この句のポイントは、芭蕉がどこに泊まったかではなくて、推敲の妙にあります。芭蕉は「ホトトギス」を好んで句にしていましたが、さすがに藤の花とは季節にずれがあり、推敲を重ね「草臥れて」と替え、より趣のある句が完成しました。

#### 8) 芭蕉と桜

心を弾ませて花の吉野山にやってきた芭蕉、期待にそむかぬ見事な風光に感嘆して三日も 滞在していながら、笈の小文に記するところでは、遂に思うような句作がなかった。

「我いはん言葉もなくて、いたづらに口をとじたる、いと口おし。」

芭蕉大和路より

しかしながら、この句は面白いので推しの句に加えました。

(3)さくらがり きとくや日々に五里六里

句碑の場所:五条・桜井寺境内

年次: 1688(貞享5)年

底本:笈の小文

意訳:桜を求めて毎日何里も歩くとは、我ながら奇特 なことよ

皮肉交じりに、自嘲気味に、でも少し自慢げに、ニヤッとしている 芭蕉の顔が

想像できて楽しくなりました。

1里4キロなので毎日20キロ以上歩いている。芭蕉は健脚です!





## 9) 特別な日を特別な場所で 重陽の節句

(2) 菊の香や 奈良にはふるき 佛達

句碑の場所:奈良・称念寺境内

年次:1694年(元禄7)9月9日

底本:笈日記

意訳:古き、み仏達がまします奈良の都には、菊の香がただよっている。

全句集には、「重陽の節句という特別な日を特別大切な奈良の地で迎える幸せ。それをあ えて説明せず、菊と奈良と仏を並べることで、古風で優雅なイメージを醸し出してい る。」と解説しています。 この句が詠まれた日、

1694年9月9日というのがポイントになります。

9月9日は、「重陽の節句」といわれ、平安時代の初めに中国から伝わったとされています。

中国では、奇数は縁起の良い「陽の日」とされ、奇数の重なる日を祝いの日と考えられました。陽の日の最大値である「9」が重なる日を「重陽」と節句の一つにしたと言われています。

旧暦の9月9日は、現在の10月中旬頃にあたり、菊の花が見頃を迎える時期です。中国では、菊は邪を払う力を持っているとされており、それが日本に語り継がれ、重陽の節句では菊の花を楽しむ行事となっています。

江戸時代に入ると、幕府が節句を楽しむことを推奨していたとも言われています。 重陽の節句は四季を彩る5節句の1つとして庶民の楽しみでした。

#### 四季を彩る五節句

日付	漢名	和名
1月7日	人日(じんじつ)の節句	七草の節句
3月3日	上巳(じょうし)の節句	桃の節句 ひな祭り
5月5日	端午(たんご) の節句	菖蒲の節句 こいのぼり
7月7日	七夕(しちせき)の節句	笹竹の節句 七夕(たなばた)
9月9日	重陽(ちょうよう)の節句	菊の節句

改めて年表をご覧ください。奈良に来た季節、過去5回はいずれも重陽の節句ではなかった。この年の秋、大阪から、しどうとしゅどうという2人の弟子のいさかいを仲裁してほしいとの依頼があり、大阪に行くのですが、その前にわざわざ9月8日の朝早くに伊賀上野を出発し、夜遅く奈良に到着しました。おそらくですが、すでに芭蕉の体調は結構悪かった。しかし翌月死ぬとは思っていなかった。だから、奈良で菊の花を愛でれば、邪を払い自分の体調も回復するのではないかという希望を持ってやってきたのではないかと私は思います。そして、翌日の9月9日にこの句を詠んだあと大阪に向かったのです。しかし、希望むなしく翌10月12日に病気で亡くなりました。この句は芭蕉が奈良で詠んだ最後の句となりました。

推しの9句

	句
1	綿弓や琵琶に慰む竹の奥
2	露とくとく試に浮世すすがばや
3	御廟年経て忍は何をしのぶ草
4	若葉して御目の雫拭はばや
5	水取や籠りの僧の沓の音
6	奈良七重七堂伽藍八重ざくら
7	くたびれて宿かる比や藤の花
8	さくらがりきとくや日々に五里六里
9	菊の香や奈良にはふるき佛達

以上、推しの9句をプレゼンさせていただきました。9句はいかがだったでしょうか?句の数は、最初はベスト10にしようと思ったのですが、重陽の節句の話を最後にしたかったので、それに関連付けて推しの句の数も9句にしました。今日は話せませんでしたが、碑に刻まれていない句も含めて推したい句がたくさんあります。別の機会があれば、お話しさせていただけるよう、これからも引き続き大和の芭蕉の句に関わっていきたいと思います。